

町田市議会議員・良識ある保守主義

# 吉田つとむ

若者育成を最優先する政治

〒194-0011 町田市  
成瀬が丘 1-14-12  
サンホワイト E103-13  
☎ 042-795-7361  
(FAX: 必要に応じて186  
を頭に加える)  
yoshidaben@gmail.com



## 町田市議会の一般質問と通告日

国会の質問は、議員が政府に対して、質問日の2日前までに通告をしようと言う慣例があるようですが、それがなかなか守られないために、官僚が徹夜で答弁書を作成することが度々問題になっています。



行政職員によるヒアリング風景

町田市議会では、そうした例示は見当たりません。特に、最近では町田市は行政側が議員に質問日と質問通告締め切り日時間を異様に長く求めている傾向が表れています。今期の日程で見ると、市長に自由なテーマで質問できる「一般質問」は議案が出された(2月14日)翌々日の(2月16日)正午が締め切りとされています。1分でも遅れると質問禁止となり、過去に議員が質問を失いました。

そして、議員が実際に質問するのは、3月14日から22日の間です。抽選(2月16日)で発言日程が決まります。結果、職員がストレスがたまるだけでなく、通告をした議員は緊迫感を失うほどになっています。そのためにか、最近では、質問と答弁が決まりきった内容の読み上げ的な発言が見受けられ、言葉の臨場感が薄らぐ傾向が出ています。実際の質問に当たって、その答弁に則したリアルな再質問となるように心がけたいと思います。

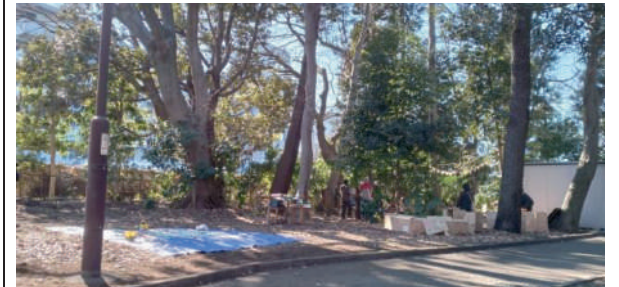
◎一般質問は、議員個人と行政のやり取りです。石坂市長の時代になって本人が答弁をせず、決して好ましくはありませんが、部長のみが答えるケースが増大しています。

会議における行政の発言は、部長答弁としても市長の責任が無くなるものではありません。

◎第1定例会の一般質問は、3月半ばから後半にかけて実施され、広報は4月になります。

## まつばやと冒険遊び場見学訪問

松葉谷戸公園の冒険遊び場が1月29日に開設されました。名称は、「まつばやと冒険遊び場」とされています。これまでに本格開設のために何度も当地でプレ開催してきた人たち(松葉谷戸に冒険遊び場をつくる会)の努力のたまものでしょう。駐車場は設置されていないことで、隣接する都営住宅のコイン駐車場に留めました。子どもの訪問者には施設内に駐輪場が置かれていました。近場の小学校は南第三小、南第四小になりますが、他の児童や訪問者はJR横浜線成瀬駅の南口から出る金森地区コミュニティバス・成瀬駅ルート(かわせみ号)も利用できます。なお、トイレは公園の入り口にあります。



開催日は水、木、土、日の四日間で、開催時間は、10-2月が10:00-16:30、3-9月が10:00-17:00となっています。冒険遊び場には大人のプレイリーダーがいて、子どもが楽しく遊べる手助けをしています。説明書には、「プレイリーダーは、こどもの遊ぶ環境を整え、自由に遊ぶ子どもを見守り、時には子どもと遊びながら、一緒に考え、一緒にチャレンジする遊び仲間です」と書かれています。これで、町田市内全域で5カ所目の定期開催型冒険遊び場が設置されました。

◎町田市議会は定数36名、議員は原則「会派」単位に活動し、一般質問は個人で行います。採決は概ね「会派」単位、会派「無所属」は自由に賛否を決める場合もあります。

◎住民請願は事務局に提出、相談して下さい。署名が必要なものは、会派に連絡して下さい。

◎一般の要望・相談は会派「無所属」に。個人情報規定に基づき厳守します。

# 町田市議会 会派「無所属」

政党に属しない無所属議員で構成する

町田市議会  
〒194-8520 東京都  
町田市森野 2-2-22  
☎042-724-2171  
「無所属」会派室



## 市長の不在と施政方針の代読

「石坂市長は病気療養のために、1月12日から2月28日まで榎本悦次副市長が市長の職務を代理します」と町田市が発表しています。1月初旬に内示がありましたが、直接聞いたものでなく、1月8日の出初式で見たのが最後でした。



その後を含めて、市長の病気の種類は一切発表されておらず、町田市の幹部とは面談が取れているようですが、見事にかん口令が敷かれているのです。また、実際の施政執行に滞りが出ているとは思えず、ある意味官僚組織の一体性は見事です。ただし、副市長は住民から選ばれたわけではなく、施政方針を職務代理者が議会発言することに違和感があります。

そのため、今度の定例会の一般質問では、「市長のやる気について(1)市長は元気なのか、(2)会合の出席や広報の出番について(3)議会の発言について」を尋ねることにしました。一般質問日程は3月14日であり、その日には石坂市長は職務に復帰して、質問に答弁する立場になっています。

◎町田市議会は定数36名、議員は原則「会派」単位に活動し、一般質問は個人で行います。採決は概ね「会派」単位、会派「無所属」は自由に賛否を決める場合もあります。

◎住民請願は事務局に提出、相談して下さい。署名が必要なものは、会派に連絡して下さい。

◎一般の要望・相談は会派「無所属」に。個人情報規定に基づき厳守します。

## 指定金融機関がきらぼし銀行に

地方自治体では膨大な現金の収納と支払いがあるために、現金の取扱に熟練している金融機関を指定しています。令和5年7月1日、町田市の指定金融機関が、現在の横浜銀行からきらぼし銀行に変わりますが、それは定期的(2年間)に変更するものであり、町田市の場合、その2行を交替制で指定しています。2月22日の市議会本会議に議案で提出されて可決したものです。町田市役所本庁の中に、指定金融機関の派出所(支店ではない)がありますが、そこは金融機関の有人(金融機関の職員)窓口となっており、平日の9時~16時に営業しています。その前後の時間は、市役所会計課の窓口にて収納事務を行っています。

ただし、一般の市民の方々の納付に関しては、多数の金融機関やコンビニエンスが使えます。あるいは、クレジットカードや、スマートフォンアプリなどを使った支払い方法が多様化されています。また、自分の金融機関口座を事前に登録し、その口座振替の方法もあります。さらに、町田市は、通帳の届出印を使わず、キャッシュカードのみで口座振替の手続きができる「Pay-easy(ペイジー)口座振替受付サービス」もPRしています。



参考：きらぼし銀行成瀬支店の全景

# 町田市議会 会派「無所属」

議員個人の意見と考えを大事にしています

町田市議会  
〒194-8520 東京都  
町田市森野 2-2-22  
☎042-724-2171  
「無所属」会派室



会派室で打ち合わせ中

## まちづくり若者サミットに参加して

若者が就業して経済的な自立を図る取り組みが重要と考えてきました。一方でそのことは、若者の社会参加も期待するものですが、今回、関係者の誘いを受け、「全国まちづくり若者サミット 2023」に出席しました。参加者の世代が20-30歳代で、10歳代の参加者(高校生)も大勢見かけました。リアル・オンライン報告の内容では、中学生が参加する例もありました。



会議は、日本青年館に多数の若者が集まる

「若者が育つ地域とは」というトークセッションでは、各地で「若者会議」等という名称で、未来のまちづくりや、SDGs(持続可能な開発目標)を掲げた、15-30歳の取り組みが報告されました。環境保護活動、地域の祭りの運営、若者のネットワーク作りなどの紹介が続き、その対称比較が論じられました。この若者世代の取り組みの特徴では、行政がやると財政の支出に過ぎないものが、彼らが実施した場合は、収入を生み出す収益事業として進められるケースがあることでした。まだまだ、「若者会議」の組織グループ数や参加人数は少ないのですが、来年にはもっと増えることでしょう。

## 一般職員給与の引き上に賛成し、市長給与の引き上げに反対

2022年度第4定例会において行政が提案した条例案では、一般職員給与の引き上げに賛成し、市長給与の引き上げる条例案に反対した理由を記します。



研修生が絶え間なく傍聴に来ています

その一般職員給与の引き上げ内容は、主に職員初任給のアップを目的とするもので、民間企業において近年初任給の引き上げを続けており、来年度の新卒者の行政職員確保を図るために対応するものです。

他方で、市長給与の引き上げは期末手当(ボーナス)の率をアップする内容ですが、この間の財政状況を考慮すると、及び町田市議会議員はこの間報酬(ボーナスを含む)引き上げをした例は一切無いことから、市長自身の引き上げは認められないという立場から反対しました。条例議案の賛成者は25人、私が所属する「無所属」会派の全員3名を含め、反対は10人でした。この間、なんだか、この市長給与の引き上げが実施されてきましたが、徐々に、市長給与の引き上げに反対する議員が増加しており、次は逆転できないかと思っています。

◎町田市議会の傍聴は、年齢の制限は一切なく無く、また市民でなくても誰でも出席できます。ただし、傍聴者はヤジだけでなく、一切会議中の発言が禁止されています。また、拍手などで賛意を表すこともできません。

◎町田市議会は小さな親子連れでも傍聴可能なように、親子傍聴室を設置しています。

町田市議会議員・情報公開の街

# 吉田つとむ

交通文化都市・4期連続トップ当選



左上 blog



右上 HP

下左 Mail



## 山間の神山サテライトオフィス

無所属会派の視察で、徳島県神山町のサテライトオフィスを現地で学びました。ここは鉄道も通らない山間にありながら、多数の企業がサテライト企業を進出させてきた自治体です。自治体が促進したのは情報通信の高度化した環境のみですが、コロナ以前より、オンラインで東京都心と2極化を図る企業が人気を呼び、今では神山町に移住する人口が移転する人を上回る勢いで、若い人が集まっています。



それを仕掛けた人は、NPO法人グリーンバレーのリーダー大南信也氏(前理事長)ですが、それに呼応した一人が隅田徹氏と言い、自身が東京都心のタワーマンションから神山町に移住し、企業の拠点も並行して神山町にも展開していました。元来、映像配信、サービス開発の企業を運営し、神山では古民家を改造した「えんがわオフィス」をオンライン事業所として作り、さらに宿泊施設にも手を広げ、今では全国化するペースで事業展開を図っておられました。企業の旧来における地方進出は、安価な労働力を求めたものが大半でしたが、隅田徹氏の場合は、中央と地方の経済格差の解消も自ら意図したものでした。

## 世界初のDMVを会派視察・乗車

無所属会派全員で徳島県海陽町を訪れ、DMV(デュアル・モード・ビークル)を視察、乗車体験しました。バスと鉄道が一体化した乗り物で相互の切り替えが可能な交通手段で、世界で初めて実用運転するものです。2021年12月25日に阿佐海岸鉄道(阿佐東線)に有料営業運転がされていますが、初めて訪れました。過疎化対策でもありますが、JRが運行を廃止した後のレールを利用し、連続した区間のバス運行と同じ車体を使って運行する新しい乗り物です。延長は鉄道区間約10km、バス区間約5km合計15km(室戸方面には週末各1本往復:プラスバス区間38km)となっています。

路線の途中で走行モード変更を行う場所が2か所ありますが、わずか15秒でタイヤ⇄鉄輪の変換が終了し、運転士が車両の周りを自分で一巡でするのみで確認できるのが特徴です。その駅で乗り降りする乗客を除いて、乗客はそのまま元の客席に座った状態を保ちます。そのため、モード変更の観察は、翌日の朝に実施しました。前日の運転士さんが親切に説明されました。なお、このDMVを運転するには、大型二種免許と鉄道運転免許の双方が必要だとも聞きました。全国に情報発信が進み、鉄道マニアや親子連れの訪問者が増加することでしょう。



◎議会の視察には、委員会で他の自治体などを視察する場合と、議会のそれぞれの会派で視察する場合があります。それらは報告書を記載し、議会に提出し、保存されます。

今回の記事は、「無所属」会派3名で視察した報告書の一部を利用して記載しました。